

平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年11月8日

上場会社名 株式会社ゲオディノス 上場取引所 大  
 コード番号 4650 URL http://www.geodinos.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 光安 浩二  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 吉住 実 TEL 011-241-3951  
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

百万円未満切捨て

1. 平成25年3月期第2四半期の業績（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	4,084	△1.4	38	△48.9	△47	—	△69	—
24年3月期第2四半期	4,140	△3.4	75	△8.1	△3	—	△28	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	△16.21	—
24年3月期第2四半期	△6.73	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	10,835	2,253	20.7	527.87
24年3月期	10,725	2,339	21.8	548.35

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 2,247百万円 24年3月期 2,335百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成25年3月期の業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,450	1.6	250	34.4	80	247.8	50	—	11.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

(参考)

前期（平成24年3月期）実績 売上高8,316百万円 営業利益186百万円 経常利益23百万円 当期純利益△103百万円

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期2Q	4,303,500株	24年3月期	4,303,500株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	45,094株	24年3月期	45,094株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期2Q	4,258,406株	24年3月期2Q	4,258,409株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続きを実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、復興需要等を背景として、緩やかに回復がみられるものの、欧州政府債務危機問題の影響等による金融資本市場の変動や海外景気の下振れ等によって、景気が下押しされるなど、依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社は、原点である「ホスピタリティ溢れる喜びと感動の場づくり」の理念のもと、一層の経営の効率化を図り、さらには代表取締役の異動や組織変更などにより、収益力の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の売上高は40億84百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益は38百万円（前年同四半期比48.9%減）、経常損失は47百万円（前年同四半期は経常損失3百万円）、四半期純損失は69百万円（前年同四半期は四半期純損失28百万円）となり、売上高は当初の業績予想（売上高42億30百万円）を下回りましたが、営業利益及び経常利益並びに当期純利益においては、業績予想（営業利益30百万円、経常損失60百万円、四半期純損失80百万円）を若干上回って推移しました。

当第2四半期累計期間における営業実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	前年同四半期比 (%)
GAME運営部 (千円)	1,587,986	△8.7
フィットネス運営部 (千円)	1,169,812	13.0
ボウリング運営部 (千円)	552,624	△2.9
カフェ運営部 (千円)	300,718	△12.4
ディノス施設運営部 (千円)	472,978	4.3
(シネマ) (千円)	(366,302)	(3.6)
(その他) (千円)	(106,676)	(6.4)
合計 (千円)	4,084,120	△1.4

- (注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
 2. ディノス施設運営部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。  
 3. ディノス施設運営部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

#### (GAME運営部)

GAME運営部につきましては、ゲオショップ内のゲームコーナーであるリトルパークの積極的な新規出店並びにUFOキャッチャーに代表されるプライズ機の景品を取れやすくすること（原価率重視からペイアウト率重視へ転換）やメダルゲームの貸出枚数を大幅に増加させる（時間消費型レジャーへの意識転換）などの施策が効果を上げ始め、後半回復傾向になりましたが、大震災後の前年4-6月身近なレジャーが比較的堅調だったことの反動で第1四半期が落ち込んだ影響などにより、売上高は15億87百万円（前年同四半期比8.7%減）となりました。

#### (フィットネス運営部)

フィットネス運営部につきましては、健康意識の高まりにより、利用者及び会員数が増えたこと、加圧トレーニング導入効果など会費外収入が増えたこと、女性専用の「ホットヨガスタジオ ハーティ（北九州小倉）」（平成23年12月オープン）が収益に寄与したこと、千葉県旭市の老朽化した店舗を「ゲオフィットネス旭店」（平成24年4月）として新築移転オープンした増収効果などにより、売上高は11億69百万円（同13.0%増）となりました。

#### (ボウリング運営部)

ボウリング運営部につきましては、健康増進レジャーとして、生涯スポーツとしての魅力普及強化により、ボウリング教室等をシニア層向けに開催したり、また3ゲーム目以降1ゲーム100円等の企画を開催しましたが、ロンドンオリンピックの開催や今夏の猛暑などが影響し、入場者数が減少したことにより、売上高は5億52百万円（同2.9%減）となりました。

#### (カフェ運営部)

カフェ運営部につきましては、毎月20日を「カフェの日」として、サービス価格で提供するメニューや各種割引サービスを設定し、後半回復傾向にありましたが、前事業年度に業界全体の規制強化の影響を受け、それが当第2四半期累計期間においても引き続き回復のテンポが鈍いことなどにより、売上高は3億円（同12.4%減）となりました。

(ディノス施設運営部)

ディノス施設運営部につきましては、「シネマ」において、全スクリーンデジタル化の設備投資効果でODS（ライブ等映画以外の興行）が堅調であったこと、前半ヒット作が少なかったが、後半「バイオハザードV リトリビューション」、札幌劇場にて独占上映した「最強のふたり」が大ヒットしたことなどにより、3億66百万円（同3.6%増）となりました。また、「その他」において、前期1店舗に事務所として他社への賃貸物件を増やしたことにより（平成23年6月）、不動産賃貸収入が増加し、売上高は1億6百万円（同6.4%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末の総資産は108億35百万円となり、前事業年度末に比べ1億10百万円増加しました。これは主に、建物等有形固定資産の減少（前期末比1億10百万円減）がありましたが、現金及び預金等流動資産の増加（同2億43百万円増）があったことによるものであります。

負債については、85億82百万円となり、前事業年度末に比べ1億96百万円増加しました。これは主に、短期借入金等流動負債の減少（同82百万円減）がありましたが、社債等固定負債の増加（同2億79百万円増）があったことによるものであります。

純資産については、22億53百万円となり、前事業年度末に比べ86百万円減少しました。これは主に、利益剰余金の減少（同69百万円減）があったことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ3億26百万円増加し、11億22百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1億90百万円（前年同四半期は1億60百万円の増加）となりました。これは主に、確定拠出年金移行に伴う未払金の減少額が1億39百万円及び利息の支払額が64百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が4億7百万円あったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、9百万円（前年同四半期は1億97百万円の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が75百万円ありましたが、有形固定資産の売却による収入が29百万円及び差入保証金の回収による収入が37百万円並びに長期貸付金の回収による収入が11百万円あったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、1億26百万円（前年同四半期は4億63百万円の増加）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が6億84百万円、長期未払金の返済による支出が1億86百万円、リース債務の返済による支出が1億41百万円、短期借入金の返済による支出が1億円及び社債の償還による支出が94百万円ありましたが、長期借入れによる収入が7億円及び社債の発行による収入が6億33百万円あったことなどによるものであります。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

通期業績予想につきましては、売上高が当第2四半期累計期間において当初の予想を約1億40百万円下振れしたこと、当初計画していた新規出店及び改装計画の一部を見送りもしくは延期したことによる減収要因はあるものの、GAME運営部の売上が回復傾向にあることなどにより、84億50百万円としました。また営業利益及び経常利益並びに当期純利益においては、当第2四半期累計期間が若干上回って推移していること、出店計画の変更に伴う設備投資の抑制効果などにより、通期で増収増益を確保できるとした当初予想を据置くことといたします。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	795,742	1,122,137
売掛金	136,667	126,050
商品及び製品	24,633	28,196
原材料及び貯蔵品	71,796	69,183
その他	216,876	143,734
貸倒引当金	△1,110	△1,360
流動資産合計	1,244,605	1,487,943
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,935,155	3,829,185
アミューズメント機器(純額)	485,334	434,815
土地	2,699,860	2,699,860
リース資産(純額)	544,969	597,546
その他(純額)	222,011	215,550
有形固定資産合計	7,887,330	7,776,958
無形固定資産	29,545	30,356
投資その他の資産		
差入保証金	1,185,177	1,187,534
その他	362,948	323,418
投資その他の資産合計	1,548,126	1,510,953
固定資産合計	9,465,001	9,318,268
繰延資産	15,975	29,419
資産合計	10,725,583	10,835,631
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	148,506	155,831
短期借入金	100,000	—
1年内償還予定の社債	188,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	1,277,308	1,343,239
1年内返済予定の長期未払金	382,203	372,339
未払法人税等	24,818	20,595
賞与引当金	26,213	38,409
ポイント引当金	4,400	6,700
建物解体費用引当金	27,380	—
その他	1,023,810	882,577
流動負債合計	3,202,642	3,119,692
固定負債		
社債	618,000	1,062,000
長期借入金	2,947,968	2,897,323
長期未払金	938,027	776,611
資産除去債務	137,634	139,119
その他	541,551	587,674
固定負債合計	5,183,180	5,462,728
負債合計	8,385,823	8,582,421

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	253,922	184,894
自己株式	△20,987	△20,987
株主資本合計	2,310,705	2,241,677
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	24,410	6,226
評価・換算差額等合計	24,410	6,226
新株予約権	4,644	5,307
純資産合計	2,339,760	2,253,210
負債純資産合計	10,725,583	10,835,631

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	4,140,023	4,084,120
売上原価	883,370	866,173
売上総利益	3,256,652	3,217,947
販売費及び一般管理費		
給料	795,488	801,075
賞与引当金繰入額	29,512	38,409
退職給付費用	10,980	10,940
水道光熱費	331,450	348,074
租税公課	41,525	34,597
地代家賃	631,969	604,186
減価償却費	353,487	398,013
修繕維持費	206,966	193,916
その他	779,952	750,212
販売費及び一般管理費合計	3,181,333	3,179,427
営業利益	75,318	38,520
営業外収益		
受取利息	1,966	1,752
受取配当金	880	1,024
アミューズメント機器売却益	2,190	—
受取保険金	2,104	1,597
その他	7,953	1,670
営業外収益合計	15,095	6,045
営業外費用		
支払利息	65,079	64,597
アミューズメント機器処分損	4,878	7,094
その他	24,449	20,165
営業外費用合計	94,408	91,857
経常損失(△)	△3,993	△47,292
特別利益		
固定資産売却益	—	12
投資有価証券売却益	—	4,848
特別利益合計	—	4,860
特別損失		
固定資産除却損	1,883	1,408
特別損失合計	1,883	1,408
税引前四半期純損失(△)	△5,877	△43,841
法人税、住民税及び事業税	16,136	16,133
法人税等調整額	6,638	9,053
法人税等合計	22,775	25,186
四半期純損失(△)	△28,653	△69,027

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△5,877	△43,841
減価償却費	363,290	407,065
株式報酬費用	1,415	662
貸倒引当金の増減額(△は減少)	429	250
賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,482	12,195
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,196	—
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額(△は減少)	—	△139,524
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△600	2,300
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△2,704	—
受取利息及び受取配当金	△2,847	△2,776
支払利息	65,079	64,597
有形固定資産除却損	6,721	8,503
有形固定資産売却損益(△は益)	△2,149	△12
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△4,848
売上債権の増減額(△は増加)	4,056	10,616
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,018	△950
未収入金の増減額(△は増加)	△1,218	5,278
その他の資産の増減額(△は増加)	△27,850	△13,184
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,851	7,325
未払消費税等の増減額(△は減少)	△77,000	21,784
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△8,421	△20,872
その他の負債の増減額(△は減少)	△41,348	△45,057
小計	241,820	269,512
利息及び配当金の受取額	1,029	1,186
利息の支払額	△66,248	△64,127
法人税等の支払額	△15,711	△15,973
営業活動によるキャッシュ・フロー	160,889	190,597
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期貸付金の回収による収入	9,511	11,463
出資金の払込による支出	△900	—
投資有価証券の取得による支出	△1,260	△1,248
投資有価証券の売却による収入	—	10,650
有形固定資産の取得による支出	△203,375	△75,143
有形固定資産の売却による収入	3,287	29,914
有形固定資産の除却による支出	△939	△85
無形固定資産の取得による支出	△1,357	—
差入保証金の差入による支出	△5,768	△3,203
差入保証金の回収による収入	3,118	37,156
投資活動によるキャッシュ・フロー	△197,683	9,503

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	600,000	—
短期借入金の返済による支出	△600,000	△100,000
長期借入れによる収入	1,150,000	700,000
長期借入金の返済による支出	△630,525	△684,714
社債の発行による収入	293,357	633,903
社債の償還による支出	△85,000	△94,000
長期未払金の返済による支出	△167,579	△186,902
リース債務の返済による支出	△96,350	△141,992
配当金の支払額	△2	—
その他	△3	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	463,895	126,293
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	427,101	326,395
現金及び現金同等物の期首残高	767,655	795,742
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,194,757	1,122,137

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。